

# 札幌市介護保険事業計画推進委員会（第8期）

## 第2回事業者調査部会 議事要旨

日 時：令和4年10月3日（月）午後3時～午後4時  
場 所：札幌市役所本庁舎12階 1号～3号会議室

### I 出席者

#### 1 委員

池田委員長（部会長）、瀬戸委員、木浪委員、長崎委員、加藤委員、出田委員、齋藤（ル）委員、田村委員

#### 2 事務局

石崎高齢福祉課長、栗山介護保険課長、澤田認知症支援・介護予防担当課長、池田事業指導担当課長、足立企画係長、遠藤企画調整担当係長、佐々木認知症支援担当係長、岩井中介護予防担当係長、高田主査（地域支援）、小林事業者指定担当係長、大山施設指導係長

### II 議事次第

#### 1 開会

#### 2 議事

(1) 事業者対象調査の項目の検討について

#### 3 閉会

### III 議事概要

#### 1 開会

池田事業指導担当課長より委員の出欠状況について報告及び配付資料の確認

#### 2 議事

(1) 事業者対象調査の項目の検討について

○池田部会長 それでは、これより議事に入りたいと思います。

この事業者調査部会は、第2回の今回が最後ということになります。

今回は、主に第1回での議論の経過を踏まえて、事業者対象のアンケート調査項目の部会としての最終案を決定することになります。したがって、今回は、前回の意見を踏まえた上でアンケート調査項目の修正あるいは反映がされておりますので、それを確認いただくことを主眼にご意見をいただきたいと考えております。

前回の部会でも申しあげましたけれども、この部会では、多くの委員の皆様には様々なお立場から幅広い観点でご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、事務局から、アンケートの詳細についてご説明をお願いいたします。

《遠藤企画調整担当係長より資料に沿って説明》

○池田部会長 ありがとうございます。

今、ご説明いただきましたけれども、第1回でいろいろとご意見を頂戴しまして、特に、災害時のこと、あるいは、感染症対策に対するご意見を結構いただきました。そこは、より具体的に、もしくは、回答しやすくということで、いろいろな難しさもあるので、複数回答にして、あとは、その他ということで自由記載も含めてという形で修正をしてつくり込んでおります。

それから、やはり、こちらも重要なところだと思いますけれども、人材のところ、採用の問題、あるいは、ハラスメント、職場定着という問題もありますので、例えば、研修を加えるなど、充実した設問にするということで、ご意見に基づいて修正をしております。

その点については、部会後にも、カスタマーハラスメントというような視点からも必要ではないかということで改めてご意見をいただきましたので、事務局と調整して入れていただいております。

あとは、同様に、法人のほうも人材の問題、特に経営的な視点から人材派遣会社の経費の問題が挙げられておりましたので、それを追加しております。

それから、介護ロボット等は、回答者がイメージしやすいようにということと、事業者調査と同じですけれども、専門職員と介護予防支援担当職員を分けて聞くというような修正をいただきました。

まずは、この修正内容について、もしご意見がありましたらいただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

特に、ご指摘いただいた委員の方から確認のご意見をいただければと思います。

瀬戸委員、お願いします。

○瀬戸委員 僕は、介護ロボットについて、統一できるかと質問したのですが、こんな形で出していただいてよかったかなと思います。

ありがとうございました。

○池田部会長 ほかは、いかがでしょうか。

田村委員、お願いします。

○田村委員 前回欠席してしまいまして、すみませんでした。

資料2(2)の8番に人材派遣の派遣労働者人数というところがあるのですが、あくまで紹介事業所を経由したときには必要経費として払ったが、今は自分たちが直接雇用しているというところはここに書かれないと思うのですが、それでよろしいかという念のための確認でした。

あとは、紹介会社に払う手数料ですが、実は、この問題は事業所ではかなり困っていて、全国的な問題になっています。しかも、札幌市の中心部、この辺にもたくさんオフィスがあるという状況で、北海道ではこの辺に結構固まっているのだと思います。

このお金が結構右肩上がりに上がっているという問題に対して現状を把握したほうが良いと感

じているので、そこを把握できるような設問があればいいなと思っています。

○池田部会長 こちらをご指摘いただいたのは加藤委員ですが、追加で何かありますか。

○加藤委員 私もそれはあったほうがいいと思います。

ただ、派遣会社に払う費用の割合、紹介手数料というのが年収の何%だったり月給の何か月分など、結構ばらばら部分があるので、そこら辺はどういうふうに答えてもらったらいいかというのは問題かと思っています。

○池田部会長 実は、紹介料の問題が結構あるということですね。

まずは、事務局で何か回答があればと思うのですが、いかがですか。

○事務局（池田事業指導担当課長） 前回もそんな話が出ておりましたよね。ですから、逆に、委員の皆様でお話しただいて、こんな聞き方ならいいのではないかとご提案いただいて入れていただくのがよろしいかなと思いますので、ぜひ現場のお声を聞きたいと思っています。

○池田部会長 委員の皆さん、ごさいませんか。

瀬戸委員、お願いします。

○瀬戸委員 僕も紹介料については引っかかっていたので、いろいろ考えてみたのです。

例えば、紹介料の金額自体を書くのか、もしくは、紹介料は人件費には入ってこないの、事業費の中の何かの割合で出すか、例えば、特養とグループホームでは紹介の人数が違うため、金額だけで見ても分からないので、何かの割合で出すしかないかなと思うのです。収入に対して何%ぐらい紹介料として払っている、というふうにしたら、その大きさが分かるかなというふうくらいしか思い浮かばなかったです。

○池田部会長 収入に対してですか。

○瀬戸委員 いわゆる介護保険収入に対してどれくらいかです。収入に対していくら払ったかが人件費率ですから、それは明確になります。それと同じように、紹介料比率という出し方をしているところがあるかどうかは分かりませんが、それは計算すれば出てくると思うので、それくらいしか出し方がないかなと思っていました。

○池田部会長 そうすると、この選択肢は、人件費の割合、派遣料金の割合、そして、紹介料の割合というような形で、同様に、介護事業収入における割合を出してもらうということですか。

○瀬戸委員 この新しい8番は、あくまでも派遣労働の話なのです。田村委員がおっしゃられたように、紹介だと派遣ではなくて完全に職員として入ってきますから、人材紹介を活用しているかどうか、している場合にどれくらいの人数を入れたのか、紹介手数料が収入の何%という形のほうが分かりやすいかなという気がします。別個に設けたほうがいいような気がします。

○池田部会長 問4-8-4として、紹介料の割合というか、紹介料についてということで、何人紹介してもらったか、その紹介料は合計で介護収入のどのぐらいの割合か、この辺りででしょうか。

田村委員、加藤委員、いかがですか。

○田村委員 私としては、それでいいかなと思います。

ただ、やはり1人当たりいくらかかったのかというのは相当インパクトがありますし、あの人に何円かかったのだよなというのは結構分かっていますので、それはすぐ答えられると思うので

す。全部の設問がそうですけれども、法人で振り返ってちょっと調べないと回答のしづらい手間のかかる設問にはなってしまうかなとは思いますが。その辺が危惧される部分ではあるかなと思いますけれども、必要な質問とは考えます。

○池田部会長 1人当たり金額を出しますか。

長崎委員、どうぞ。

○長崎委員 大事な設問だとは思いますが、この設問で何を知りたいかというところが大事かなと思うのです。

多分、派遣会社も1社だけではなくて、2社、3社と使っている事業所もあったり、どこに人が足りないのかもあると思うので、この問いで何を調べるのか、ただ単に派遣料金が総収入のうちのこれだけかかっているということか、相場的なものなのか、あとは、今、人材が不足しているから派遣会社にこれだけ頼らなければいけない現状が札幌市にある、つまり、人材の確保が難しいということは人材を育成しなければいけないことなど、すごく大きいものではないですけれども、何を知りたいかが明確になったほうがいいのかと聞いていて思いました。

○池田部会長 人件費に関わる負担の状況を知ることだと思うのですが、そういう意味では、割合まででもいいのかもしれないですね。

田村委員、どうぞ。

○田村委員 長崎委員のおっしゃるとおりだと思うのですが、私としては、例えば、看護師などは、行政が委託したところに登録をしていれば紹介できるような仕組みがあると伺っています。今はどうしても民間のもうけ主義のようなところが派遣、紹介していますが、札幌市は潜在介護福祉士が相当いると言われていいますので、もし行政委託などの公的ところで紹介できるようになると、介護報酬がそこまで上がらなくても負担はしなくていいなど、新たな政策につながっていったりするという点では結果を期待したいかなと思っています。

○池田部会長 木浪委員、どうぞ。

○木浪委員 看護師についても、看護協会やハローワーク経由で募集をかけても全然応募が来るような状況ではなくて、やはり人材紹介を通して来る割合のほうが非常に高いです。ハローワークに出しても、年間1名来ればいいくらいなのです。私どもは派遣というのは全く一切ないのですけれども、人材紹介を使っている割合は90%以上で、年々、費用がすごく高くなっています。

また、年収の何%というふうに紹介料を取られるところがすごく多いのですが、その割合というのが資格によって違います。ですから、資格によってどのぐらいの差があるのか、ほかの事業所ではどのぐらい紹介料を使っているのかというのを知りたいなとは思っています。

○池田部会長 そうすると、ご意見としては、職種ごとにその割合を聞くということになりますか。

○木浪委員 職種ごとというか、私どもの事業所、また、ほかの訪問介護や介護職員のところなど、出すところによって違うと思いますので、複雑になるかもしれませんが、それで分類できれば少し見方が変わってくるかなというか、分かりやすいなとは思っています。

○池田部会長 回答のしやすさ等々を踏まえながら、実質、何を聞きたいのかというところで、

目的を満たすようなことを考えなければいけないのです。

要は、長崎委員とかぶりますけれども、今の木浪委員のご指摘の職種ごとに負担を聞くというところでは、どういう目的になりましょうか。

○木浪委員 紹介にどのぐらいの費用がかかっているのかということと、全採用数における紹介所を使って採用している割合がどのぐらいになっているのかが分かると、もう少し明確になると思います。

今、私は、ハローワークではあまり応募が来ないというか、役に立っていないなというふうに考えているものですから、そこから行政からの後押しなどがあるとありがたいなという期待も込めてですけれども、全採用における人材紹介を使用している割合も分かるとありがたいと思います。

○池田部会長 どういう聞き方ができるか、検討しなければならないかなと思います。

齋藤委員、お願いします。

○齋藤（ル）委員 齋藤ルミ子です。

家族が施設に入っていたという立場ですけれども、やはり人材が足りていないのだなと思うことは多々あります。

最終的に、それをどういうふうに補っていくかというお話ですが、今、やはりコロナ禍でもあって、さらに施設の看護師やケアのスタッフの方が忙しいのだろうな、手が届かないのだろうなと。面会には行けませんから目にすることはないのですけれども、電話対応の中である程度感じることはたくさんあって、コロナも1年後はもう大丈夫だろう、面会もできるようになるだろうとずっと思ってきたのですが、やはり先が見えない状態で、経済を動かすためにいろいろところで緩んでいるけれども、やはり末端の介護や医療といったところは厳しいですから、そのところで人材が足りなくなる、負担が大きくなっているということがあると思うので、あまり緩ませてもいけないと思います。

例えば、本当にガラス越しの面会や、LINE のパッドでの面会、たくさんの人が出入りするのではなくて家族1人だけなど、いろいろ工夫してくれています。

ですから、ボランティア的な形の人材というか、傾聴だけでも違うと思いますし、何かそういったところで少し補えれば、この人材も、先ほど、何がどのところで必要なのかというのも見えてくると思うのです。ただ、人が足りない、派遣会社を通したらどうだ、何かハローワークを通して集まらないから、では、こうしよう、そうしようではなくて、緩んではいけないのだけれども、もう社会が緩んでいるので、何か規定をつくってくれと、各家庭がいろいろ悶々としていの中で、市や国といった大きなところで何かこう動いてくれると、それが機能するのではないかなと思うのです。

何か人材の部分とは違うかもしれないのですけれども、広くボランティア的なものを動かしていただけたら、各施設でも変わってくるのではないかと思ったりしています。お金のかかることばかりではなくて、何かそういったことも考えていただけないかなと思います。

○池田部会長 ユーザー側からの貴重なご意見だと思います。

ボランティアも含めて、家族の面会も含めて対応できるような施設環境にできないだろうかというようなことでしょうか。

この点は、恐らく、違うところの項目になるかもしれないので、また後で触れたいと思います。

また、市民対象のアンケートが別にありまして、そちらでは、例えば、ボランティアをどれくらい希望しているかといったものを聞くはずですので、恐らく、それと合わせて見えてくる部分があるかと思いますが、それを踏まえて行政の施策につなげていけるといいのかなと思ってお聞きしておりました。

先ほどの人材の紹介に戻りたいと思いますけれども、例えば、問4-8-2の受入れ人数のところ、一応、職員の区別があります。この区分を活用して、別途、人件費の何%の紹介料を取っているのかというような回答をもらうということも考えられますでしょうか。それと、先ほどの介護収入における紹介料全体の割合を見るとという項目を2つ考えて追加するというようなことではないでしょうか。

具体的な聞き方については、一任させてもらってもよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田部会長 ありがとうございます。

それで、今のボランティアのことですけれども、私ももう一度確認してみたいと思いますが、事務局、例えば、施設でボランティアを受け入れているという項目はなかったでしょうか。

○事務局(栗山介護保険課長) 介護保険課長の栗山でございます。

市民調査アンケートにおいては、ボランティアグループへの参加頻度というか、活動の参加について、いろいろと伺うところがあります。

○池田部会長 その番号を教えてくださいませんか。

○事務局(栗山介護保険課長) 高齢社会に関する意識調査の問3-1-(1)ですから、お配りした資料にはないのです。

○池田部会長 市民向けのほうですね。

○事務局(栗山介護保険課長) 市民調査部会の資料になります。

○池田部会長 では、事業所のほうにはボランティアの受入れについてはないということになりますか。

もし入れるとしたら、どこかありますでしょうか。こちらにもボランティアの受入れについて、どこか項目を1つ増やしますか。市民向けでボランティアのことを聞いていますので、事業所のほうでも受皿としてどうかということはあるのかなと思いますけれども、どうでしょうか。

どうぞ。

○齋藤(ル)委員 どうしたらボランティアをできるかというところで、各区役所で受けているのと、実際に施設で受けているような、問合せができるような形で書いてありました。でも、ざっくりで、ボランティアといっても幅広いですから、例えば、一緒に歌いましょうといったものなど、種類が分からないのです。ただ、ボランティアとあっても、各事業所がどういうふうを受け止めているのか、区役所が提供をどう捉えているのかが分からないので、その辺も本当に細か

くあるといいなと思います。

○池田部会長 確かに、事業所も様々ですから、あまり細かく聞くとボリュームミーになってしまいますので、まずはボランティアを受け入れているかどうかを大きなくりで聞いてみるのが取っかかりとしていかがかなとは思っています。

○齋藤(ル)委員 そういうのも、コロナ禍だから今は駄目なのだと面会と同じような形になっているのか、やはり、コロナ禍において仕事も増えていると思うのです。入居者のエネルギーもなくなっていくと思うので、もう少し傾聴だとか、定期的に何かどこかで携われれば、週に1回何かができるという話に持っていけると、どちらもウィン・ウィンではないかなと。施設においても、入居者も、みんながいいのではないかなと思うのです。

○池田部会長 少しご意見を聞いてみたいと思いますけれども、施設側として、こういう設問があっていいかどうか、どうでしょうか。

瀬戸委員はいかがですか。

○瀬戸委員 ボランティアを受け入れているかどうかということは聞いてもいいかなと思います。先ほど齋藤委員がおっしゃったようなコロナ禍でどう変わったとかというのは、この調査とはちょっと趣旨が違うような気がします。

例えば、送迎の手伝いをしています、お掃除に来てもらっています、お話し相手に来てもらっているまで聞くか、受け入れているか、いないかどうかという、どちらかだと思うのですけれども、質問に関して答えることは全然不可能ではないと思います。これが市民調査と相まって、これだけボランティアをやりたいとしているし、受入先もこれだけあるので、そこをどう結びつけていくのかというのが地域福祉にとって大事だと計画の中に書けるのであれば、非常にいい設問になるかなと思います。

○池田部会長 木浪委員、こういうボランティアに関してはどうですか。

○木浪委員 施設系や住宅型のところであれば、現在もボランティアの受入れをやっているところもありますので、そういう設問があっていいと思います。

今、訪問系は、ボランティアの受入れはほとんどしていないと思いますので、考える機会にはなるのかなと思います。いろいろなタイプのボランティアという意味で考えますと、あってもいいと思います。

○池田部会長 施設系ということで、加藤委員にも聞いてよろしいですか。

○加藤委員 やはり、コロナの前は、ボランティアを結構受け入れていたと思うのです。ボランティアの方を活用して何とか運営していこうという考えも実はあるのです。だから、今はコロナ禍ですけれども、コロナが明けると、またそういう考えが出てくると思います。

ボランティアの方も、無償の方と有償の方がいらっしやいまして、私のところは、やはり、なるべく正職員を使っていて、定員基準には満たさないと思うのですけれども、うまく回せばいいとは思っています。

○池田部会長 ほかは、よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○池田部会長 入れてもいいのではないかというご意見が多いかなと思いますので、まずは大きく聞くということで、どこかに入れ込むことを検討したいと思います。

本日が最終日ですので、繰り返しになりますけれども、こちらを一任していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田部会長 ありがとうございます。

それでは、修正事項のところ、いかがでしょうか、何かお気づきの点はありますでしょうか。

加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 また人材のところに戻ってしまうのですけれども、金額で何か数字を書いてもらったり、何%ですかと聞くと、結構答えにくいのです。だから、例えば、0%から10%、10%から20%、金額だったら、0円から10万円、10万円から20万円と選ぶようにすると、答えやすく、回答率も結構上がってくると思うのですよね。

○池田部会長 貴重なご意見をありがとうございます。

確かに、感覚的にも回答可能になるということですね。

田村委員、お願いします。

○田村委員 資料2(2)の10番ですが、私も以前から地域包括支援センターの配置が政令指定都市の中でどれぐらいになっているのかは関心事だったのです。

問4-12-1の妥当性のところで、選択肢がいろいろあるのですけれども、括弧でその他を入れておくと、意見を持っている方はいろいろ書けるかなと思いました。

あとは、私たちが予想できない設問、選択肢に入れられなかったものが寄せられる可能性があるもので、設けておいたほうがいいかなと思いました。

○池田部会長 その他項目ですね。

これは、よろしいですね。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田部会長 では、その他項目を追記するということにいたします。

ほかは、いかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○池田部会長 改めて、修正項目以外も含めて、全体を通して何かご意見がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○池田部会長 よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田部会長 ありがとうございます。

それでは、先ほどいただいたご意見は事務局で記録されていると思いますので、それを踏まえて、部会長と事務局で調整をして最終案としたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

それでは、若干早めですが、これを持ちまして、部会における検討を終了させていただきます。



いろいろとご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、あとは、部会長一任ということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田部会長 よろしくお願いいたします。

それでは、今後の予定について。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局(遠藤企画調整担当係長) 本日もたくさんご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

今後の流れにつきましてご説明いたします。

本日いただきましたご意見や修正が必要な点につきましては、部会長からもございましたように、事務局と部会長で調整をさせていただきまして、事業者調査部会としての最終的な調査項目案を、次回の第4回介護保険事業計画推進委員会を10月25日火曜日15時から予定しておりますけれども、こちらに報告をしまして、委員会全体で確認を行い、調査実施に向けて準備を進めていくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

なお、実際の調査に当たりましては、設問の趣旨を損なわない程度の文言修正を行う場合がございますけれども、その点につきましてはご了解いただけますようお願いいたします。

私からは、以上でございます。

○池田部会長 ありがとうございます。

事務局から今後の予定についてご説明がありました。ご承知おきをお願いいたします。

### 3 閉会

池田部会長より、第2回事業者調査部会の閉会を宣言した。